（別紙4）　　令和　1　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 1290700069 | | |
| 法人名 | 医療法人社団　聡誠会 | | |
| 事業所名 | グループホームふくろう | | |
| 所在地 | 銚子市春日町1169 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年7月9日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 株式会社　日本ビジネスシステム |
| 所在地 | 千葉県市川市富浜3-8-8 |
| 訪問調査日 | 令和2年7月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人が事業所を経営していることで、医療との連携を迅速に図ることができ、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。また、ホーム職員には看護師もおり、日ごろの健康面から将来的に見取り介護を希望された場合、心配なく今迄過ごした馴染みのあるホーム、ご自分のお部屋で最後の時まで過ごすことができます。職員1人ひとりが入居者様の気持ちに寄り添い、いっさい拘束のない安心して過ごせる居場所作りを大切にしています。月2回の専門職による音楽療法を取り入れており、音楽を通して脳の活性化、心身の健康の維持・向上、若返りを図っています。また、月々の行事担当者が季節やご利用者様に合わせた行事を取り入れ娯楽面の支援にも努めています。ご家族の皆様には離れて生活していても安心していただけるように、ホームでのみな様の様子を伝える「ふくろう通信」や、個人の毎日の様子をお伝えする一行日誌を毎月お届けしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームふくろう」は平屋建てのバリアフリー環境が整った施設で、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。母体法人が医療法人であり、24時間連絡が可能となっており、緊急時・急変時の体制が整備されていると共に、看護資格を有する職員がおり、日々の健康管理・服薬管理・状態の変化に応じた適切かつ迅速な対応が可能で、入居者や家族の安心に繋がっている。また、職員の離職が無く、定着しており、入居者及び家族に対する信頼関係が構築されている。定期的に施設広報誌「ふくろう通信」や入居者一人ひとりの毎日の生活状況を綴った「一行日記」を送付する等、家族とのつながりを大切にしており、家族からも好評を得ている。その他にも、音楽療法を取り入れる等、脳の活性化や心身の健康の維持・向上及び、入居者の生活活性化を図っている。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | ○ | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を施設内に掲示し、常に理念を振り返るようにしている。職員と利用者のその人らしさを大切に、健やかに過ごせるように日々努めている。 | 施設理念と運営方針を事業所内に掲示し、全職員で利用者本位の支援の実践に努めている。また、会議等を通じて、共通認識を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内の敬老会に参加したり、近隣施設とはお互いの行事に声をかけ合い行き来させていただいている。また、当ホームの行事の際には町内会の方々にも声をかけ交流を図っている。 | 納涼祭や敬老会等の地域行事への参加や太鼓等の施設行事への招待を通じて、地域との交流を図っている。また、地域の中学生の職場体験を受け入れていると共に、地域の小学生が気軽に立ち寄れる関係を築いており、世代間交流及び地域貢献に取り組んでいる。その他、地域のデイサービスとの交流行事への参加やボランティアによる音楽療法の実施により、入居者の生活活性化にも努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方々を少しでも理解していただけるように、毎年市内中学校の職場体験を受け入れている。また、ボランティアも積極的に受け入れている。認知症ケアに関する相談にも対応している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の現状報告や行事内容、職員の研修状況などを報告し、推進委員との意見交換、質疑応答を通して、今後のサービスに反映できるよう努めている。他の施設や地域の情報等を得て、実際の取り組みに活かせるよう努めている。 | 運営推進会議を年6回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域保健推進委員・有識者・家族・法人幹部等が出席している。会議では、施設の活動・研修・ヒヤリハット等の報告や意見・情報交換を行い、相互理解を図った上でサービスの質の向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域実務者会議、主任ケアマネ会議など、地域で行われる勉強会へ積極的に参加し、地域との連携を図っている。市や地域包括支援センターとも協力体制を築いている。 | 業務における相談や報告を通して、日頃から市と連携を図っている。多職種が参加する地域実務者会議や地域ケアサービス部会・銚子ケアマネクラブ等に参加しており、市や地域の事業者との意見・情報交換や勉強会を通して協力関係を構築している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3カ月に1度の勉強会を実施し職員全員の理解を深め、当初からの身体拘束排除をいっさい行わない介護を実践している。 | 身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に検討委員会が開催されており、身体拘束の無い支援を実践している。また、身体拘束排除における内部研修の実施やマニュアルの整備を通じて、全職員で共通理解と意識向上に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員は身体拘束廃止・虐待防止の研修会に全員参加しており、高齢者虐待法を理解し、日々虐待が行われる事のない雰囲気作りに努めている。万一虐待があった場合も早期発見できるよう心掛けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員は認知症介護実践者研修等で日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約・解約をする際は、ご家族の疑問や不安が解消されるまで十分な説明を行うよう心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 『ふくろう通信」「一行日誌」などでホーム内の日々の様子をお知らせしたり、その中で職員の想いもお伝えすることで、ご家族が来訪時などに意見や要望を表出しやすいように努めている。また、出された意見は必ず職員間で話し合い、今後のサービスに反映できるよう努めている。 | 家族の面会や電話連絡の際に意見や要望を確認している。また、運営推進会議にて確認しており、入居者や家族本位の支援に努めている。「ふくろう通信」や「一行日誌」を毎月家族に発行しており、写真や文書により、入居者の生活や活動状況を伝えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者・管理者は職員が気軽に意見や要望を言える雰囲気を作り、しっかり聞くように心がけている。日々の申し送りやカンファレンスで意見交換した内容も代表者にも伝え、反映できるよう努めている。 | 定期的に会議やカンファレンスを開催すると共に、申し送りや連絡帳等を活用し、職員から意見や提案を確認している。また、希望休の受け入れも柔軟に対応しており、働きやすい職場環境の整備も行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々のスキルを配慮した給与体制を取り、向上心を持って働けるように努めている。また、介護職員処遇改善交付金を申請し、介護職員の収入増を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 全職員を対象に、認知症介護基礎研修や実践者研修、リーダー研修をはじめとする外部研修には積極的に参加できる体制を取っている。また、研修で得た知識は内部勉強会を行い、知識・情報が共有できるよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域で開催される会合や研修へは積極的に参加し、同業者・多職種間との地域ネットワークを育んでいる。それらの参加、活動を通しサービス向上に取り組んでいる。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今までと違った環境下での緊張と不安を取り除き信頼関係を築くために、職員は笑顔でゆったりとした雰囲気で接するように心がけている。また、生活歴や経験等の情報を活かし、その人らしく暮らせるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にホーム見学に来ていただき、その段階からできる限り多くの生活歴等の情報をいただき、ご家族の要望、不安等を理解し受け止めることで、ご家族の不安の軽減ができるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご利用者本人・ご家族との話し合いにより、生活歴・ライフスタイルを知り、求めているサービスを把握した上で課題を明らかにし、わかりやすく説明し理解いただくよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者ご本人が決めたり、希望を表現することを大切にしている日常生活での手伝いを通じて、昔ながらの知恵を教えてもらったり手助けしてもらえるとありがたいという職員からの感謝の気持ちを伝えるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご利用者本人の想いを聞いたり、心情を察し、ご家族と職員の間でその情報を共有できるように連絡を取り合い、ご本人の想いが実現できるよう、必要であればご家族に協力していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時間や外出・外泊に柔軟性を持って対応し、ご家族をはじめご親戚やご友人が気軽に訪問できるよう努めている。また、入居時にはなじみのお店などを聞き、入居後も利用継続していただいている。馴染みのある場所へのドライブなども常時行っている。 | 友人・知人・家族等の面会を随時受け入れており、馴染みの関係継続に配慮している。また、家族との外出や外泊も支援している。地域の商店や美容室の利用支援やドライブを実施しており、馴染みの場所との関係も大切にしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士の関係は全職員が情報共有し把握している。またご利用者様個々の性格等も把握しており、必要時は職員が仲を取り持つなどし、ご利用者様間で助け合いながら過ごせるような関係性を築けるよう心掛けている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方にはお見舞いなどを通して経過把握に努めている。また、契約終了後もご本人・ご家族が得たい情報がある時には情報提供をし、必要時には相談・支援できるよう努めている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人と接する中で想いを把握し、ご家族からの情報も合わせ希望や意向に添えるように努めている。困難な場合はご本人の言葉や表情、しぐさなどから多角的に読み取り職員間で話し合い、ご家族からの意見も聞き検討している。 | 本人や家族から意向を確認していると共に、医療機関からの情報も把握している。また、日頃の会話や観察等から本人の思いを汲み取り、会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、全職員で情報を共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聞き、ご本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取り把握できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員が一人ひとりと関わる中で、日常の状態を把握し、新たな事柄や想いなど知り得た情報があったり変化があった時には申し送りやカンファレンスで確実に伝え合い、職員間で情報共有できるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族からの情報、職員が日々関わりを持つ中で気づいたご本人の希望する生活や課題をアセスメントし、カンファレンス等で話し合い、介護計画を作成している。その後ご家族に提示し意見をもらい、経過をモニタリングしている。 | 本人・家族の意向を基に会議等で検討し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を実施しており、必要に応じて支援内容の見直しを行う等、現状に即した介護計画作成に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェックや生活状況などを客観的に、またはご本人の言葉や行動、表情などを個々に記録し職員間で共有している。介護計画の見直しの際は情報の一つとして活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人・ご家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。通院の支援や必要サービス機関の紹介、提出書類の代行など出来る範囲で支援できるよう努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 入居前に馴染みの合ったお店やよく出かけていた場所などは、入居後も活用できるよう支援している。また、車いすでも出かけられる飲食店やスーパー、訪問してくれる床屋さんなどの情報収集をし、活動支援に活かしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご利用者またはご家族が希望している医療機関を受診している。受診時の状態や必要に応じてバイタルチェック表など情報提示をしている。経営母体であるクリニックとは24時間連絡が取れるようになっている。 | 希望の医療機関への受診を家族と協力しながら支援している。また、必要に応じて内科や皮膚科の往診を実施しており、適切な医療支援に努めている。協力医療機関とは、24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変時における協力体制を構築している。その他にも看護職員による健康管理や医療相談等も行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 3名の看護スタッフがおり、介護職とは利用者の日々の状態変化や身体面精神面での気づきや介護上の不安点などを報告、相談しながら介護に当たっている。看護職がすぐに対応できることから、早期発見、早期対応ができ、適切な医療受診への支援にもつながっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には適切な医療、看護が受けられるようご利用者の情報提供を行っている。また、退院時は入院中の情報ならびに退院後の生活上のアドバイスを受けるなど情報交換を通して共同の関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、日常の健康管理や急変時の対応、医療機関との連携についてご家族に説明した上で意向を伺っている。入居期間が長くなり状態が変化してきた方には、その時点で改めてご家族の意向を確認するようにしている。見取りについての指針作成、ご家族の意向を尊重して同意書を作成するようにしている。 | 終末期・重度化における施設方針を明文化していると共に、契約時に説明の上、同意を得ている。必要時には、家族の意向を再確認しており、職員間で検討を重ねながら、できる限りの支援が行えるよう努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時の対応方法を勉強会等で確認し合い、必要連絡先は常時電話機の傍に掲示している。急変時の前触れとなる健康状態の把握についても、シグナルを読み取ることにと務め、予防を心がけている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災等を想定した避難訓練は防火管理者研修を修めた職員を中心に企画し年2回行っている。災害対策マニュアルを作成し、地域施設と連絡を取り、非常時避難先の確保も出来ている。 | スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防避難訓練を実施している。訓練については、防署立会いの下、消火訓練や通報訓練等を実施している。また、防火管理者研修については、2名受講済みであり、管理体制も強化している。 | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように、常に尊厳を守って接するように心がけている。勉強会などで話し方・接し方を学び、個々が自由に過ごせるように努めている。 | 施設理念のもと、入居者一人ひとりのその人らしさを大切にした支援に努めている。また、会議等で、プライバシーや接遇について、話し合いを行い、適切な対応に繋げている。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が自己決定できるように、一人ひとりに合わせ支援している。利用者の話を遮ることなく受け止め、上手く表現できない方はその方が理解できる声かけをし、表現される様々なことから想いや希望を受け止めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間、レクレーションへの参加など毎日のこともご利用者本人の希望、状況に合わせた支援を行っている。何をするにもまず声掛けから始まり、一人ひとりの反応や希望を考慮し、その日そのときのご本人の意向に添って過ごせるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人ひとりのおしゃれ、身だしなみなどの好み、生活習慣を継続して楽しむことができるように支援している。理・美容もご本人が望む馴染みのお店に行けるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日の食事は配食サービス（食材）に依頼しているが、定期的にご利用者の好みに合わせたテイクアウト商品を利用するなど変化のある食事を楽しんでいただいている。職員が一緒に食事をしながら様子を見守り、必要に応じた支援を行っている。準備や片付けも個々の能力に応じた対応を行っている。 | 献立作成と食材については、業者を活用しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。食事の盛り付けや食器洗い・食器拭き等については、入居者の個々の力を活かしながら職員とともに協働で行っている。定期的に外食・行事食・出前・手作りおやつ等を実施しており、食の楽しみを提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日を通した食事・水分摂取量を確認し記録している。一人ひとり食べるペースや体調に合わせ声掛け、見守り、介助を行っている。水分は1日800ml以上摂取できるように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きを促し、個々の能力に応じ見守りや介助を行っている。義歯は夜間預かり消毒している。定期的に口腔体操も行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を記録することで排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促している。夜間もトイレ誘導を行い、個々の能力に応じた支援を行っている。 | 排泄チェックリスト表等を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、適切な排泄を支援している。また、食事や水分に配慮していると共に、運動を取り入れる等、便秘の予防・対応に取り組んでいる。必要に応じて医師や看護師に相談を行い、適切な排便コントロールに努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適切な食事・水分摂取量が確保されるように注意している。また楽しみながら運動できるように支援している。便秘傾向の方には適切な下剤使用を工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は週3回行っている。湯の温度や洗い方などの要望を聞きながら、入浴剤や季節に合わせた菖蒲やゆずなども利用し、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒まれる方には無理強いせず、シャワー浴や清拭などでも対応している。 | 入居者の希望や体調に応じて、適切に入浴を支援している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴も実施しており、入居者の清潔保持に努めている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を実施しており、入浴の楽しみも支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者の心身の状態に応じて、個々の生活パターンに休める場を設けるように支援している。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜間眠れない方にはリズム作りの支援を行うなど、出来るだけ薬に頼らず安眠できる支援に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の管理は出来る出来ないに関わらず職員が行っている。ご利用者の使用している薬の内容はファイルしてあり、すぐに確認ができるようになっている。ご利用者個々の能力に応じた服薬支援を行っており、服薬に注意が必要な場合は情報共有し、症状変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者本人・ご家族から得た情報を活かし、入居前に楽しまれていたことは続けられるように支援している。また、できる能力は最大限に活かしていただけるような役割を持ってもらうようにしている。季節や外の空気を感じ喜びにつなげることができるよう、ドライブや散歩もよく行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 月毎の行事担当者がその季節やご利用者の希望に合わせ、花見や寺社参拝に出かけたり、外食に出かけている。気分転換を図り馴染みの場所をドライブしたり、馴染みのお店に買い物に出かけるなどの支援を行っている。 | 入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ・外食等の外出を支援している。また、定期的に行事担当者が外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。外出については、天候・希望・身体状況・習慣・趣味を考慮する等、入居者一人ひとりに合わせた外出活動に取り組んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金に対しての想いは個々によって異なり、また管理能力も異なるため、他者とのトラブル回避のためにも職員が預かり、必要に応じて使えるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者が電話をかけたいと希望する時には本人の想いに応じて支援している。利用者当ての手紙などは、ご本人が読めない時には代読するなど、必ず届くように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有スペースには食事がとれるテーブルの他にソファがあり、共有スペースの中でもお好みの場所でゆっくり寛げる空間作りに努めている。壁には利用者と共に作成した季節ごとの作品を飾りつけるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、各居室からの生活動線を広く取るよう配慮している。 | 施設は、平屋建てのバリアフリーで、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル等を設置し、自由にくつろげる環境整備がなされている。開放的な窓の向こうにウッドデッキが設置され、日向ぼっこやお茶飲み等が可能となっており、入居者の楽しみの場として活用している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間が大きなホールになっており、そこに食事をするテーブルとソファがあり、仲良しグループや余興のお好みの合う者同士など、その時の利用者の関係性や行動などに合わせてホール内の家具を移動するなどしている。一人静かに新聞を読む方には、職員が一人の空間を保てるように配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に長年使いなれた家具や好きな写真などを持ち込んでいただき、安心でき居心地よく過ごしていただけるようにしている。ご自分のお部屋に愛着を持っていただけるよう、またご自分のお部屋がすぐにわかるように部屋のドアにはその部屋を利用する方が見えやすい大きさ高さで名前を貼ったり、わかりやすいマークをつけている。 | 本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。ポータブルトイレやテレビを使用する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室には、鍵や収納が設置されており、個々のプライバシーが確保されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの位置やテーブル、いすの高さなど、利用者が適切に使える状態になっているかを職員間で話し合っている。トイレや浴室には見やすい場所に案内を表示し、個々のお部屋にも本人の名前や写真を貼るなど、利用者がわかりやすいような環境づくりに努めている。 | | |